

令和4年度

三鷹中央防災公園・元気創造プラザ

総点検に関する報告書

令和5年3月

特定非営利活動法人三鷹ネットワーク大学推進機構

## 《目 次》

I.	令和4年度総括 .....	1
II.	令和4年度の取り組みについて.....	5
	1. 学識参加.....	5
	2. 市民参加.....	5
	3. 職員参加.....	5
	(1) 職員ワークショップの開催.....	5
	(2) 事務局会議の開催 .....	6
III.	会議等の記録と収集した意見について.....	6
	1. 学識参加「助言者会議」の記録.....	6
	2. 市民参加の記録 .....	16
	3. 職員参加の記録 .....	19
	(1) 三鷹中央防災公園・元気創造プラザまるごとウェルカムデー担当者打ち合わせ	19
	(2) 職員ワークショップの開催.....	19
	(3) 事務局会議の開催 .....	22
IV.	資料.....	24

## I. 令和4年度総括

三鷹中央防災公園・元気創造プラザの総点検に関する「総点検事業」での討議を経て

立教大学名誉教授

中村陽一

2019（令和元）年度から取り組まれている三鷹中央防災公園・元気創造プラザの総点検について、2022（令和4）年度の活動に取り組んだことで見えてきた、今後のコミュニティデザインへ向けての「論点」を中心に、以下簡潔にまとめてみたい。なお、取り組みの内容や検討結果を反映した今後の基本的な考え方については、報告書本文をご参照いただきたい。

この「総点検」は、2017（平成29）年のオープン以来、多くの市民に利用されている同施設について、ハード・ソフトの両面から多角的な視点で点検を行うことで、施設をより良く活用することを目的としている。

### 21.5 世紀型の新しい市民参加へ

前年度に引き続き、やはり三鷹市での市民参加による「総点検」として、ぜひ21.5世紀型の新しい市民参加方法論につながるような活動でありたいと考え、そのための触媒となりうるプレイスメイキング、タクティカルアプローチ、さらにはフューチャーデザインといった方法を重視した。

すなわち、長期スパンでの構想・計画よりも、市民の暮らしに沿ったショートスパンからの試行錯誤を大切に、大所高所から「形成」したり「つくる」のではなく、持続可能で内発的な取り組みが重要だと考えた点は昨年度と同様である。

また、広場・サードプレイス・ソーシャルキャピタル・ネットワーキングといった社会デザインのキーワードとも親和性のある、一気に変革や変動を実現させるのではなく、たとえばコミュニティデザインを積み重ねていった先に新たなデザインを実現するような考え方を基本に据えたいという思いについても、引き続き大切にしている。すなわち、建築物や建築空間を、その機能や役割、そこに行き来する市民の関係性から見ることによる地域や社会（課題）との連結可能性を追究しようとする視点の持続性に留意した。同時に、地域や社会（課題）の側から照らし出される点を本年度もまた、できるだけ丁寧に抽出しようとしている。

既存の考えや、いま計画にあがっているものは可視化できるが、まだ見ぬものやこれから俎上にのぼせられるものについては、上記の方法論による創造力/想像力の「引出し」が必要であり、今年度はそこがさらに明確になっていると考える。

昨年度明示した「オープンであること+つながり（へ向けて開かれていること）+ソー

シャルキャピタル（社会関係資本）」への仕掛けとして、コミュニティや社会の課題との出会いと連結が生まれる方向としての4つの方向性は今年度においても基本とってよいと考える。

内容は繰り返さないが、①複合施設から、諸機能融合施設へ、②ゆたかな場づくり（プレイスメイキング）へ向けての継続的改善、③21・5世紀の市民参加の推進、④市民知と職員参加の融合、である。

### 社会デザインの眼で見つめ直す三鷹中央防災公園・元気創造プラザ

ここであらためて、「社会デザイン（ソーシャルデザイン）」の視点からのアプローチについて強調しておきたい。

筆者が40年近く試行錯誤してきたこと、それはキーワード風にいえば「つながり」とか「関係性」、これまで積極的に関わってきた事柄でいえば、「ネットワーク」「社会デザイン（ソーシャルデザイン）」「コミュニティデザイン」といったことだ。

また、それらが展開される場のありようについても考え続けてきた。そこでは、クロスセクター、クロスジェネレーションなどによる越境型の学びと実践が鍵になるといえるだろう。いまどの企業においても、どこの自治体においても、多かれ少なかれ言及されるようになったダイバーシティと（ソーシャル・）インクルージョンといった政策目標も、それなしでの実現は考えられない。

近年、これらの課題群はぐっと互いの距離を縮めている。まだ混沌としているとはいえ、それだけに、各所で面白く大事な試みも始まっている。

それらは、新たな「ものの見方、考え方」としての社会デザインを通してのパラダイムシフトないしパラダイムチェンジをはかろうとするものといえるかもしれない。

21世紀に入り、環境や地域紛争など前世紀からの宿題に加えて、新しい形の貧困や社会的排除（social exclusion）が世界と日本の大きな課題となっている。その解決のため、政府行政・企業・NGO/NPO等の組織はそれぞれどのような役割を担うのか。また、セクターの垣根を越えた「協働」は、どこまでの有効性と可能性を期待できるのか。異なる価値観を持つ人々が共生していくための知恵や仕掛けとしての社会と、そこでの人々の参加・参画の仕方を、これまでの常識にとらわれず、根底的という意味でラディカルに革新（イノベーション）していくことが、あらためて求められている。そうした思考と実践のありようを、筆者は「社会デザイン」と呼んできた。

そもそもデザインとは、日本において考えられてきたような製品やサービスの単なる設計や絵を描くことに留まるものではない。それは、先に述べた社会の仕掛けを大胆に組み替えていくことであり、「いまここではないどこかと、まだここにはないなにか」を求め続ける一連のプロセスでもある。まだ十分に可視化されてはいないものの、それは、確かに存在感を強めているネットワークとカリゾーム状といったイメージと深く結びつくと同時に、「市民社会」の創造という長年の「宿題」とあらためて向き合う間でも

ある。それは、個々人の well-being としての幸福を実現するため、人と人、人と地域や組織などとの関係性を調整する実践ともいえる。

筆者は、これまでこうした社会デザインをめぐる「鳥の眼」にこだわり続けるとともに、他方、非営利・公共分野と関わる社会的な活動諸組織の運営・経営人材を輩出するため、NGO/NPO・リスクガバナンス・ネットワークはもとより、コミュニティデザイン、さらにはCSR/CSVやソーシャルビジネス（コミュニティビジネス、社会的企業）など事業性豊かな領域に及ぶ具体的課題へのアプローチを通じた「虫の眼」にもこだわり、国内外の多様なネットワークを活かした実践の展開を期してきた。

「まちづくり」のちょっといいアイデアやスキルに留まることなく、問題の解決へ向け、変革を現実のものにしていく粘り強いプロセスを歩むこと、そのための理論的・構造的な探究はもとより、現場と往復し、当事者性と内発性をそなえた実践を重視したいと考えてきたわけである。他者（の生活）と出会い、交信し、関係性を活かし編み直すなかで当事者性にも出くわす。そんな更新作業（対象化）の連続はダイアログとしてのデザインであり、デザインをデザインし直すことにつながるだろう。

いうまでもなく、そうした営為の根底にあるものは、地域や生活といった足元、根元からの人びとの営みである。夢を現実のものにしたいと格闘する人たちが、「後戻りできない市民」として、多様な経験を「継承」しつつ担ってきた歴史をふまえ、新たな方法論と表現を獲得していくことこそ、社会を構成する一員としての諸組織の社会的責任＝社会の変化に応答し、反応する能力（response+ability=responsibility）であるはずだと思っている。

折しも日本の社会は、人口減少・少子超高齢社会へという流れのなかで人口動態の大きな変化の只中にあり、地方都市の縮小という現象がやがて中規模以上の都市にも及んで来ることが予想されている。これに従来の発想の延長線上で広域的な統合やハードインフラの再構築で臨むのか、あるいは、それとは異なるソフトインフラの整備などオルタナティブな選択を考えるのか、もちろん、一律に論じられることではないものの、少なくとも、たとえば、「小規模多機能自治」のようなフレームの組み換えの提唱へのまなざしが不可欠になってくるだろう。

関係性「を」外からデザインするのではなく、関係性「が」内からデザインすることを前提に、地域で人と人との関係性を醸成し、それをまた地域にフィードバックしながら事を進めるということ。大都市であっても、離島であっても基本原則は同じだと言える。地域には地域固有の自然環境があり、積み重ねられてきた歴史があり、その中で生まれた地域の文化や作法がある。それらを無視しての固定した枠組み・観念での出し物や形式的な市民参加ではなく、地域の関係性がデザインする動き＝新しい関係性を創造することが肝要である。

重要な変革は「はみ出し者」から始まることが多いという指摘を待つまでもなく、感情や身体性を欠いた机上の計画からイノベーションは生まれにくい。それは、いくら PDCA

サイクルを回せと叫んでみたところで、コストとリスクを過剰に意識して、plan という名の既定の枠組みに合わせた作文しか出てこないのが関の山であるように、既存の可視的要素しか見ようとしない狭義の「サイエンス」から創発性は生まれにくいということである。

社会には遵守すべき法や制度がもちろんあるが、まず action から始め、外部の異なる価値観と出会う越境型の学習を通しての対話と協働との両立は可能な時代となっているはずである。

以上もふまえて、社会デザインについてそうしてきたように、まず、その豊かな可能性の世界をできる限り「歩き、聴き、学び、対話を重ねる」ところから始めていきたい。

### 「三鷹らしさ ver. x」へ

本年度は実践、実証段階に入る年度として、対面要素も入れての形での実施を意識し、市民参加、職員参加のワークショップ等についても参加者の理解が深まるような場を実現していくことを重視した。たとえば、「フューチャーデザイン」などについては、参加する利用者・市民・職員に、「場をつくる」意味合いを理解してもらうためのインターフェイス（接合面）をしっかりとつくっていく必要があると考えている。

次年度どのような形になるにせよ、上記したような明解な方向性を議論し打ち出せるダイナミックな「場」づくりが引き続き必要ではないかとあらためて考えている。昨年度も書いたように、研究者が関わってのたんなる調査報告で終わりではなく、実践的なコミュニティ・オーガナイズのための場が立ち上がってくるそのときにこそ、バージョンアップした「三鷹らしさ ver. x」が可視化されるときが来ると確信している。

## II. 令和4年度の取り組みについて

### 1. 学識参加

①	令和4年5月25日(水) 15時～17時	西條辰義高知工科大学特任教授 「フューチャーデザインの手法について」
②	令和4年5月30日(月) 13時～14時	中村陽一立教大学名誉教授 「令和4年度事業について」
③	令和4年6月13日(月) 13時～15時	中村陽一立教大学名誉教授 槻橋修神戸大学大学院准教授 西條辰義高知工科大学特任教授 「今年度の考え方の共有及び具体的内容について」
④	令和4年6月30日(木) 14時～16時	中村陽一立教大学名誉教授 西條辰義高知工科大学特任教授 「フューチャーデザイン・ワークショップ及び縦連携イベントについて」
⑤	令和4年7月22日(金) 10時30分～12時30分	中村陽一立教大学名誉教授 槻橋修神戸大学大学院准教授 「ウォークショップに向けた意見交換」
⑥	令和4年10月26日(水) 9時30分～11時15分	槻橋修神戸大学大学院准教授 「12月3日開催ウォークショップについて」
⑦	令和5年3月9日(木) 14時30分～15時30分	西條辰義高知工科大学特任教授 「令和4年度の取り組みについて」
⑧	令和5年3月14日(火) 13時30分～14時30分	中村陽一立教大学名誉教授 槻橋修神戸大学大学院准教授 「令和4年度の取り組み及び総点検事業について」

### 2. 市民参加

三鷹中央防災公園・元気創造プラザ まるごとウェルカムデー内 館内見学ツアー「ウォークショップ」	
令和4年12月3日(土) 午前：10時～12時30分 午後：13時30分～16時	歩いて行うワークショップ 三鷹中央防災公園・元気創造プラザ館内をスタッフの案内で巡るとともに、グループワークでキャッチコピーを考える

### 3. 職員参加

#### (1) 職員ワークショップの開催

職員ワークショップの開催	令和5年2月16日(木)13時30分～15時30分
--------------	---------------------------

	「2050年の未来の視点から“三鷹中央防災公園・元気創造プラザと市民センター”のあり方を考える」
--	--

(2) 事務局会議の開催

①	令和4年4月26日(火)	令和4年度の進め方について
②	令和4年9月12日(月)	12月3日開催縦連携イベントについて
③	令和5年1月31日(火)	2月16日開催職員ワークショップについて

III. 会議等の記録と収集した意見について

1. 学識参加「助言者会議」の記録

助言者 中村陽一氏（立教大学名誉教授）

槻橋修氏（神戸大学大学院准教授）

西條辰義氏（高知工科大学特任教授）

① 令和4年5月25日(水) 15時～17時(オンライン)

出席者	<p>【助言者】西條辰義高知工科大学特任教授</p> <p>【三鷹市】スポーツと文化部長、同担当部長、芸術文化課長、担当1名</p> <p>【事務局/㈱ソシオエンジン・アソシエイツ】担当3名</p>
検討内容	<p>フューチャーデザインの手法について</p> <p>西條先生よりフューチャーデザインについて、その歴史も含めレクチャーしていただいた後、導入にあたっての工夫及び効果について助言をいただいた。</p> <p>&lt;ワークショップ導入部の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前に用意した「紙芝居」を用い発言の仕方にルールを設けることで参加者は仮想未来人になっていく</li> <li>・ 1人が慣れると、徐々に伝播していく</li> <li>・ そのままの年齢で将来にとぶ</li> </ul> <p>&lt;フューチャーデザイン手法の効果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仮想将来人として考えることに喜びを感じるようになる</li> <li>・ ワorkshop後の生活でも仮想将来人として考えるようになる</li> <li>・ 対立を生みにくい</li> <li>・ 地方自治体における施設の使い方（アクティビティ含め）をテーマにしたフューチャーデザインとして以下の事例がある</li> </ul> <p>(1) 岩手県矢巾町：</p> <p>町営住宅の建て替えについての検討、子どもの医療費の無料化についての検討</p>



<p>が行われている</p> <p>(2) 京都府宇治市： 市内の老朽化した集会所（130カ所）について、住民が「フューチャーデザイン宇治」を立ち上げて活動している</p> <p>(3) 愛媛県西条市： 公共施設について、機能を大切にしながらも将来の町のサイズにあわせていくための検討を市民とともにしている</p>
---

② 令和4年5月30日（月）13時～14時（対面）

出席者	<p>【助言者】 中村陽一立教大学名誉教授</p> <p>【三鷹市】 スポーツと文化部長、同担当部長、芸術文化課長</p> <p>【事務局/㈱ソシオエンジン・アソシエイツ】 担当3名</p>
検討内容	<p>令和4年度事業について</p> <p>令和4年度事業について、基本的な枠組みの検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三鷹中央防災公園・元気創造プラザのプレイスメイキングと市民参加手法について、中村陽一立教大学名誉教授を中心とした研究活動として実施する</li> <li>令和元～3年度に実施した「総点検」での検討・実施内容に基づき、三鷹中央防災公園・元気創造プラザの今後の運営に継続的に活かす枠組みの創出を目指す</li> </ul>

③ 令和4年6月13日（月）13時～15時（オンライン）

出席者	<p>【助言者】 中村陽一立教大学名誉教授 槻橋修神戸大学大学院准教授 西條辰義高知工科大学特任教授</p> <p>【三鷹市】 スポーツと文化部長、同担当部長、芸術文化課長、担当1名</p> <p>【事務局/三鷹ネットワーク大学推進機構】 事務局長、担当1名</p> <p>【事務局/㈱ソシオエンジン・アソシエイツ】 担当3名</p>
検討内容	<p>今年度の考え方の共有及び具体的内容について</p> <p>今年度の「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」総点検事業の考え方・進め方について、情報共有を行った後、核となる3つの事業について具体的な検討を行った。</p> <p>&lt;フューチャーデザインについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民が主人公のワークショップ</li> <li>積み上げ算ではない、未来から振り返ったうえでの計画行政を検討してはどうか</li> <li>ソフト、運営面にフォーカスしたフューチャーデザインを行い、総点検事業につい</li> </ul>

て考えてはどうか

<ウォークショップの進め方について>

- ・ 「市民の方々が空間を理解する」ことを目的とし、参加者が最後に課題やアイデアを出せるように準備する
- ・ ウォークショップ中にメモを取るための用紙と、最後に意見をとりまとめるためのフロアごとの見取り図を事前に用意する
- ・ あらかじめコース内におけるチェックポイントと、チェックポイントごとの配分時間（説明、質疑、ディスカッション等）を決める
- ・ 少人数（5～10人）のグループでコースを回り、ポイントごとに解説員を置く
- ・ 「施設内のサイン計画を大きく見直す」ことも総点検のポイントとなりうる
- ・ プラザの空間を頭に入れてからフューチャーデザイン・ワークショップを行うのも面白いのではないか
- ・ 今後のスケジュール

事前打ち合わせ	7月22日（金）午前
準備期間	7～8月
開催	9～10月（予定）
概要	半日プログラム

<縦連携ミニイベントについて>

「プレイスメイキング・イベント」のような、幅広いステークホルダーが連携できる場づくりについて、既存イベントとの併催を軸に、その具体的検討を行った。

三鷹市生涯学習センターフェスティバルとの同日開催の可能性も含めて、アイデア出しを行った。

**【三鷹市生涯学習センターフェスティバル】**

日程：12月3日（土）～4日（日）

主催：（公財）三鷹市スポーツと文化財団（指定管理者）

内容：センターを利用する市民による自主グループの活動の発表の場  
制作品の販売等を行っている

現状：開催のメインフロアが4、5階に限定されるため、開催の有無が他のフロアからは分かりにくく、毎回集客に工夫を凝らしている

- ・ 館全体が参画することで相乗効果が望めるのではないか
- ・ フロアごとの連携だけではなく、フロア同士の掛け合わせを実践に移してはどうか
- ・ 掛け合わせのペア部署がお互いの場所に出向く、物理的な移動を含めた相互乗り入れの仕組み、仕掛けを考えてみてはどうか
- ・ プレイスメイキング・イベントにおいては、それぞれの現場の担当者が主催者側に入る事が重要である

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 準備段階から市民が入ることが望ましく、結果としてロコミ効果もある</li> <li>・ ウォークショップにフューチャーデザインの視点を取り入れることができれば、三鷹中央防災公園・元気創造プラザの様子が別の視点からみられるのではないか</li> <li>・ 今年度のフェスティバルが成功体験となり、来年度以降の、新しいことに取り組むきっかけとなるとよい</li> <li>・ 同時開催企画として「一緒に盛りあげていく」という提示の仕方が大事である</li> <li>・ 縦連携・フロア連携イベントのイメージの打ち出し方として、ドローンを用いて屋上やバルコニーにいる人を空中から撮るなど、立体的な撮影を行い、視覚的にも縦連携を示せる画像を提示してはどうか（立体的な賑わいを見せる）</li> <li>・ 各フロア映像を編集してつなげることができれば、縦連携を視覚的に見せることができるのではないか</li> <li>・ テーマに時間軸を入れて、「22 世紀の元気創造プラザを描いてみよう」と打ち出してはどうか</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員参加については、研修も兼ねたあり方を別途検討していきたい</li> </ul>
--

④ 令和4年6月30日（木）14時～16時（対面）

出席者	<p>【助言者】 中村陽一立教大学名誉教授 西條辰義高知工科大学特任教授</p> <p>【三鷹市】 スポーツと文化部長、同担当部長、芸術文化課長、担当1名 三鷹市スポーツと文化財団スポーツ・生涯学習課長</p> <p>【事務局/三鷹ネットワーク大学推進機構】 担当1名</p> <p>【事務局/株ソシオエンジン・アソシエイツ】 担当2名</p>
検討内容	<p>フューチャーデザイン・ワークショップ及び縦連携イベントについて</p> <p>三鷹中央防災公園・元気創造プラザ施設内を見学したのち、意見交換を行った。</p> <p>&lt;三鷹中央防災公園・元気創造プラザについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複数の施設があるものの、多くの利用者は決まった一カ所とだけ利用となっている</li> <li>・ いろいろなパーツ（施設）をどう繋げるか考える必要がある</li> <li>・ それぞれの機能について考えてはどうか</li> <li>・ 20年後、30年後にどう使われているか、市民がアイデアを出し合う</li> <li>・ 数年後の目標を設定して、そこに向かっていくために何が必要か考える、ブレイスメイキング的な発想で実証実験を行う</li> <li>・ 「将来的に三鷹中央防災公園・元気創造プラザが『市民交流センター』の機能を持つ」という仮説を立ててイメージしてもらおうと、参加する市民の考え・思いが</li> </ul>

<p>より活かされるのではないか</p> <p>&lt;フューチャーデザインの手法を取り入れた市民向けワークショップについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親子で一緒に 10 年後を考える状況をつくってワークショップを行う</li> <li>・ 未来の利用者会議、子ども議会的なものを取り入れる</li> <li>・ 施設に対する愛着を生むことにもなり、参加する子ども自身にとってもよいのではないか</li> <li>・ 目先の、近い未来のことを考えるのではなく、様々なパーツを総合的に考え 10 年後のあなたならどう考えるか、という場をつくる</li> <li>・ 未来の視点から施設について考える場をつくる</li> <li>・ 「これまで利用していない人が利用したいと思うようになるためには」を考える</li> </ul> <p>&lt;未来の施設についての仮説（案）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ （三鷹市民が）年に 1 回は自発的に来たくなる施設</li> <li>・ 10 年後には必ず来たくなる施設</li> <li>・ 我が家の一部と思えるような施設</li> <li>・ （プラザに来ると）幸せを感じられる施設</li> </ul>
---

⑤ 令和 4 年 7 月 22 日（金）10 時 30 分～12 時 30 分（対面）

出席者	<p>【助言者】 中村陽一立教大学名誉教授 梶橋修神戸大学大学院准教授</p> <p>【三鷹市】 スポーツと文化部長、同担当部長、芸術文化課長 三鷹市スポーツと文化財団スポーツ・生涯学習課長</p> <p>【事務局/三鷹ネットワーク大学推進機構】 担当 1 名</p> <p>【事務局/株ソシオエンジン・アソシエイツ】 担当 2 名</p>
検討内容	<p>ウォークショップに向けた意見交換</p> <p>三鷹中央防災公園・元気創造プラザ施設内を見学したのち、意見交換を行った。</p> <p>&lt;三鷹中央防災公園・元気創造プラザについての印象&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字（説明）が多く、緊張感を感じさせる、距離（隔たり）を感じる</li> <li>・ フロアごとの特徴を合わせるのが難しい</li> <li>・ 行政の「よろず屋」、ソーシャルデパートのようなイメージがある</li> <li>・ 一階は市民に開放されているが、上層階は城のようで入りづらい</li> <li>・ 建物内に遊びのスペースがない</li> <li>・ 自分に関係する場所しか行かない建物</li> <li>・ ゲームでいう「ダンジョン」のようであり、実際には「ハウルの動く城」のような立体感があるにも関わらず、一回見ただけではその立体感がみえず又名称からも立体感が伝わらない</li> </ul>

- ・ 色々なエンターテイメントや生活が詰まっている「豪華客船」に近いイメージなのでそこを逆手にとって建物の魅力とすると、色々なものが備わっている安心感が生まれるのではないか

<三鷹中央防災公園・元気創造プラザの活用に向けて>

- ・ 隣接する市役所と併せた形で、地区のアイデンティティを考えていく
- ・ 地区のアイデンティティを考えていく過程で中央公園＝セントラルパークとなっていけばよいのではないか
- ・ 城のようなイメージを利用して、探検、謎解きツアーとして実施し、市民に関心をもってもらう
- ・ ウォークショップを通して仕掛けをつくり、迷路のように迷うことを建物のキャラクターにする
- ・ 類似施設：
  - tette(須賀川市民交流センター) <https://s-tette.jp/> (福島県須賀川市)
  - 生涯教育施設、図書館 児童館が一緒になった建物
  - 人の移動がみえる工夫がされているが、同じく城のようで距離感がある
- ・ 1F から B2F にある空間、また芝生からの見返しが特徴的なのでそこをいかしたイベントを検討する
  - 例) ホワイトディナー@神戸 <https://kobe.keizai.biz/headline/2043/>
  - 例) 屋上から電飾を滝のように吊り下げる(=イルミネーションをつけやすい構造)
- ・ 街コン・イベントに使用してはどうか
- ・ 公園を利用したイベント(ウェディング等)で親しみをもってもらう
- ・ 文化の香りをもたせる
  - ・ (市民からの)希望の多い滞留・交流スペースを1Fに設置してはどうか(現在の滞留・休憩スペースは夏休み、平日の放課後は子供たちの利用が多い)
  - ・ 槻橋先生の神戸・三宮の取組みのように、ストリートファニチャーを設置して、人の交流がどうできるか実証実験してみるのも面白い(滞留スペースの利用は、人の流れをつくるなど色々な要素を浮かび上がらせる)
- ・ 大きなライブイベントの実施は現状において難しい

<ウォークショップについて>

対象者：三鷹中央防災公園・元気創造プラザに関心のある市民

目的：市民目線で、空間の課題を洗い出し、親しまれる使い方を考える

設定：参加者はプラザについての事前知識がない状態で館内を回る

- ・ 「施設についてのキャッチフレーズやコピー等を考える」をテーマに実施する
- ・ 資料等でナビゲーションは行うが、過度な説明は行わない
- ・ 参加者から意見聴取するための工夫をする
  - 例) ツアー時に携行する地図(ヒアリングシート)を準備する
  - ツアー内で感じたことを書き留める付箋紙を用意する

参加者が感じとった情報（付箋紙）を最終的に1枚の模造紙に集約させる

(案) 「プラザのキャッチコピーを考える」 ウォークショップ

時期：秋（10月下旬～11月 コロナが落ち着いている時期）

所要時間：2～2.5時間（見学1時間＋休憩＋個人ワーク＋発表）

コース・シナリオは事前に準備する

規模：1グループ5名＋ナビゲーター1人（職員）

\*道案内と説明担当等、役割分担を行う

企画：職員研修と組み合わせて企画段階から職員が参加する

⑥ 令和4年10月26日（水）9時30分～11時15分（オンライン）

出席者	【助言者】 槻橋修神戸大学大学院准教授 【三鷹市】 スポーツと文化部長、同担当部長、芸術文化課長、担当2名 【事務局/三鷹ネットワーク大学推進機構】 担当1名 【事務局/株ソシオエンジン・アソシエイツ】 担当2名
検討内容	12月3日開催ウォークショップについて
12月3日開催ウォークショップの内容、テーマ等について検討を行った。	
テーマ：「プラザのキャッチコピーを考える」	
内容：三鷹中央防災公園を含む全館を廻るツアーを行う	
参加者は各フロア、各部署にて担当者からパネル展示とともに説明をうけ、 ツアーのなかで、キャッチコピーのヒントとなるキーワードを見つける	
広報：「広報みたか」（11月6日号）、市ホームページ、チラシ1000部作成	

⑦ 令和5年3月9日（木）14時30分～15時30分（オンライン）

出席者	【助言者】 西條辰義高知工科大学特任教授 【三鷹市】 スポーツと文化部長、同担当部長、芸術文化課長、担当2名 【事務局/三鷹ネットワーク大学推進機構】 担当1名 【事務局/株ソシオエンジン・アソシエイツ】 担当3名
検討内容	令和4年度の取り組みについて
2月16日に実施した職員向けフューチャーデザイン・ワークショップについて、西條先生に概要を説明したのち、次回以降のワークショップ案も含めた意見交換を行った。	
・ フューチャーデザインのワークにおいて、時間が短かったために、（幸せに生きるための）コミュニティのあり方についてまで、話が深まらなかったように感じた	
・ テクノロジーやサイエンスベースの話題から、その先にある幸せのあり方について	

焦点を向けていくことが、ワークにおける重要な鍵である

- ・ 人と人とのつながりを考えながら、どのような「幸せな三鷹市」になりたいかに話を向けていくことができれば、未来における元気創造プラザが果たす役割についても考えられるのではないか
- ・ ワーク3の段階でテクノロジーの話が減り、人の手に残るものは何か、リアルの場に求められるものは何か、という方向に話し合いがなっていた
- ・ ワーク3の時間をより長くとることができれば、人と人とのつながり等へと話題が拡がり、未来における需要にも展開していったのではないか
- ・ 職員研修として参加者の意識も高く、全員「未来人」になりきっており、積極的に取り組んでいた
- ・ 発想の転換を図るという点において、新しい視点を得られるワークだった
- ・ 未来人になっても「職員としての意識」「市民サービス」という視点は変わらなかった
- ・ コロナ禍を経て、対面形式で研修ができたことに、大きな意味があった

**【助言者への質問】** テクノロジー、サイエンスベースにならないための進行上の工夫について

**【回答】** ワークでの問いかけ時に、「幸せ」というキーワードを入れることで人と人とのつながりの話に拡がっていく  
例) 「2050年、みなさんはどのように幸せに暮らしていますか？」

**【助言者への質問】** 仮想将来人になるためのツールとして活用している「紙芝居」について

**【回答】** 「仮想将来人になるとはどういうことか」をテーマとした内容で、ワークショップ参加者が仮想将来人になった経験を編集して紙芝居にまとめたもの

**【助言者からのアドバイス】**

ワークショップでの付箋紙の活用やグループワークの人数について以下の助言・説明があった。

- ・ フューチャーデザインでは原則、付箋紙は使用しない
  - ① 付箋紙を使用した場合、アイデアをまとめやすいが、話の相乗効果、経緯をたどることが難しい
  - ② 書くことでワークの時間がとられる
  - ③ 参加者が（書くことより）それぞれ話す内容に意識を集中させることで、より話が深まる
  - ④ 参加者同士が話し合うことでより繋がりあう（ワークのなかで、つながりをつくっていくことが大事）
- ・ 人数は通常最大4人としている

- ① 5人以上になると話をしない人が出てくる
- ② 取り残された感覚をもつ人が出るとグループとして一緒に将来世代を考える意識が薄れる

<今後のワークショップ案について>

- ・ 職員と市民が同じグループに入る形でワークを行ってはどうか
- ・ 市民の新しい参加手法としてフューチャーデザインを位置づけ、継続して行くことで、様々な化学変化も起こるのではないか
- ・ 職員自身に自身の本当の役割について考える機会を与える研修であり、技術が発達した未来における新しい役割、職務について気付きがあったので、その気付きを顕在化して、共有していく仕組みを次のステップとして考えたい

<フューチャーデザインに関する社会の動き>

- ・ 矢巾町においては、フューチャーデザインをまちの仕組みの中に取り入れる条例(将来の視点から評価する仕組み)づくりが進んでいる
- ・ 財務省における活用の動き  
[https://www.mof.go.jp/about\\_mof/councils/fiscal\\_system\\_council/sub-of\\_fiscal\\_system/proceedings/material/zaiseia20230217/02.pdf](https://www.mof.go.jp/about_mof/councils/fiscal_system_council/sub-of_fiscal_system/proceedings/material/zaiseia20230217/02.pdf)
- ・ 「フューチャーデザインに基づくG7広島サミットへの提言」(キャノングローバル戦略研究所)  
[https://cigs.canon/uploads/2023/03/Proposals\\_for\\_the\\_G7\\_Hiroshima\\_Summit\\_based\\_on\\_Future\\_Design\\_23-001J.pdf](https://cigs.canon/uploads/2023/03/Proposals_for_the_G7_Hiroshima_Summit_based_on_Future_Design_23-001J.pdf)
- ・ 「国連将来宣言(2024年予定)」策定にあたって、国連ヤングアンバサダー(アンダー30)のみで検討が行われていることに対し議論が起きている

⑧ 令和5年3月14日(火)13時30分~14時30分(オンライン)

出席者	<p>【助言者】中村陽一立教大学名誉教授          槻橋修神戸大学大学院准教授</p> <p>【三鷹市】スポーツと文化部長、同担当部長、芸術文化課長、担当2名          三鷹市スポーツと文化財団スポーツ・生涯学習課長</p> <p>【事務局/三鷹ネットワーク大学推進機構】担当1名          【事務局/㈱ソシオエンジン・アソシエイツ】担当3名</p>
検討内容	令和4年度の取り組み及び総点検事業について
<p>12月3日に実施したワークショップについての振り返りを行うとともに、次年度以降に向けた課題及び縦連携のためのプラットフォームの構築について意見交換を行った。</p> <p>・ 継続的に総点検を行うにあたり、取り組みを可視化していくことも併せて計画して</p>	



いくべきではないか

例) 青葉山公園（仙台緑彩館）整備事業では基本計画の段階で現地を廻って意見を  
集めて設計にフィードバックさせ、プレイスメイキングの記録も一般公開して  
いる

- ・ ウォークショップは、実際に空間に身体を運び、また参加した人同士もコミュニケーションを図れるところに特徴がある
- ・ 実際に歩くことによって、これまでは机上であった空間との関わり方が、客体から主体へと変わる
- ・ 体感しながら空間をどのように活用していくか考える構えができていく。そこにこれからの施設のあり方を考える上での可能性がある
- ・ ウォークショップを通して色々な機能が集約されているプラザであることが参加者には伝わった
- ・ 今後はプラザの情報を発信していくプラットフォーム（受け皿）が必要なのではないか
- ・ ウォークショップでできた身体の構えをどのように次の行動につなげていくか、具体化していくための計画が今後大事なのではないか

<これからの課題>

- ・ 重層的なフロア構造のプラザ内でフロア間の縦連携を今後どのように図っていくか
- ・ 身体性や五感も取り入れた形での、様々な連携のあり方を模索していく
- ・ 職員のなかにプレイスメーカーを増やす効果があったのではないか
- ・ ウォークショップを今後継続させていくなかで、市民あるいは職員の縦連携の仕組み、仕掛けを考え、それぞれの立場でのプレイスメーカーを増やす  
<縦連携ミニイベントを既存のイベントと同時開催としたことについて>
- ・ より多くの人にプラザに立ち寄ってもらい、館内を歩いて知ってもらう仕組みの必要性を感じた
- ・ 身体を伴ったコミュニケーションの場（実際に足を運び、となりに座りあう）を実現することができたことで、その重要性をあらためて実感した
- ・ 参加した職員から新たなアイデア（たとえば福祉バザーを同時開催）も出てきており、プラザ全体を盛り上げるために何ができるか、考えるきっかけとなったのではないか
- ・ コラボ企画についてアイデアベースとしては出てきているので、そのアイデアをどう実現していくか、（背中を押す）仕組みを考えるのが今後の課題である
- ・ 各フロア・部署で行っているサービスは異なっているが、それぞれどうやって外に広げていくべきか、思いを巡らしている
- ・ 各フロアから選出された職員がプレイスメーカーの役割を担って「まるごとウェルカムデー」を運営する会議体を立ち上げ、プラットフォームとなって、職員も市民

も参加できる受け皿となればよいのではないか

- ・ またイベント終了後は企画に携わった職員で次年度に向けた検証を行うことが大事である

(来年度に向けて縦連携企画委員会(仮称)の立ち上げの検討が既に始まっている)

- ・ フロアごとにプレイスメーカーがいることが望ましく、発信力のある職員同士がつながっていくことで縦連携が進む
  - ・ 職員同士のコミュニケーションの活性化が市民のコミュニケーションの活性化につながっていく
  - ・ 職員が市民と連携していくことで、イベントはより盛り上がるのではないか
  - ・ 各フロアの職員、利用者からプレイスメーカーが出てきて、企画を練ってイベントとして実現させていくことができれば、成功体験の積み上げにもなる
  - ・ 一部署が盛り上がることで他の部署へと波及していく可能性もある
  - ・ アート的な作品等を共有することでフロア間の交流は促進する
  - ・ 全館融合の縦連携イベントを、来年度以降も定常的事業として取り組んでいきたい
- <プラットフォームについて>
- ・ ソフトにとどまらないプラットフォーム構築を考えてはどうか

例) ワクチン会場だった1階にコミュニティラジオ局、ポッドキャスト配信スタジオを設ける等

各フロアをつなぐ番組、来館者やスタッフが話せる・紹介できる仕組みづくり

## 2. 市民参加の記録

「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ まるごとウェルカムデー」の開催

プラザ4・5階の「生涯学習センター」を中心に開催される「三鷹市生涯学習センターフェスティバル」の日程に合わせて、プラザの各フロア・施設を紹介する全館イベント

「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ まるごとウェルカムデー」を12月3日(土)に開催した。当日は、館内見学ツアーを含むワークショップ「ウォークショップ」を事前申込制により実施した。

### ① 各フロア・施設のイベント

施設	階	内容
総合防災センター(防災課)	5階	「災害発生時の防災力を高めよう！」 防災に関する取り組みについてパネル展示や映像等で紹介
生涯学習センター ※「三鷹市生涯学習センターフェスティバル」を12月3日(土)・4日(日)に開催	4階 5階	「三鷹市生涯学習センターフェスティバル」 自主グループによる作品展示や作品紹介、演技発表、体験ワークショップ、特別講師による講演会などを通して生涯学習の楽しさを伝

		える。軽食や手作り雑貨の販売、クイズラリーなども実施。
福祉センター（社会福祉協議会）	3階	「お役に立ちます『みたか社協』！ —誰もが安心していきいきと暮らせる福祉のまちづくり—」 社会福祉協議会で実施している事業をパネル展示等で紹介
総合保健センター（健康推進課）	2階	「保健センターの紹介」 保健センターの事業を4つのテーマ（母子保健、歯科、栄養、成人保健）に分けて紹介
子ども発達支援センター（子ども発達支援課）	1階	「子ども発達支援センターの紹介」 子ども発達支援センターの事業（子育てや発達に関する相談窓口、ひろば、一時保育等）をパンフレットやパネル展示等で紹介
三鷹中央防災公園（緑と公園課）	東モ ール	「花と緑のまち三鷹パネル展」 三鷹市の公園やみどりに関する市民の取り組み等についてパネル展示で紹介
SUBARU 総合スポーツセンター	地下	「2022 ポッチャみたかカップ」の観覧

## ② ウォークショップ開催概要

<p>日時：12月3日（土） 10時～12時30分、13時30分～16時</p> <p>内容：ウォークショップ（歩いて行うワークショップ）</p> <p>三鷹中央防災公園・元気創造プラザ館内をスタッフの案内で巡るとともに、グループワークでキャッチコピーを考える</p> <p>アドバイザー：槻橋修神戸大学大学院准教授 中村陽一立教大学名誉教授</p> <p>タイムスケジュール：</p> <p>10:00～10:30（13:30～14:00） ガイダンス ウォークショップの主旨・今後を踏まえた総点検の趣旨説明 ウォークショップの説明、コースガイダンス等</p> <p>10:30～11:30（14:00～15:00） 館内見学ツアー</p> <p>11:30～11:40（15:00～15:10） 休憩</p> <p>11:40～12:15（15:10～15:45） グループワーク・発表</p> <p>12:15～12:20（15:45～15:50） アドバイザーからの総評</p> <p>12:20～12:25（15:50～15:55） 閉会の挨拶</p> <p>12:25～12:30（15:55～16:00） アンケート記入等</p> <p>参加者：</p>
--

・ 午前の部	6人		
・ 午後の部	3人	合計	9人

③ 参加者から出された三鷹中央防災公園・元気創造プラザに対する意見等

《三鷹中央防災公園・元気創造プラザに対する意見》

- 「いろいろな年代の人が集う場所」「いろいろな人に出会えるところ」「多彩」
- 「充実」「オールラウンドの職種の集合体」「スマホのよう」「多機能」
- 「参加できることがたくさんありそう」「もりだくさん」「ソーシャルサービスのハブ」
- 「市民の暮らしをワンストップで支える」「フリースペースが少ない」
- 「1日居られる工夫がほしい」「若い人の居場所が必要」「中庭が活用されていない」
- 「認知度が低い」「仲間うちで独占してはいないか」「みんなの場所に」
- 「もっと知ろう!」「他の場所も利用したい」「お年寄りに優しい施設」「安全安心」
- 「居心地の良さ」「暮らしを楽しむための場所」「かけがえのない存在」
- 「赤ちゃんから高齢者、障がい者まで利用できる」
- 「耐震・防災時の準備が万全」「安心の避難場所」「防災拠点」
- 「大階段(スポーツエントランス)を活かすアイデアを募ってはどうか(スクリーンとして使う等)」
- 「各フロアでのスタッフの説明に業務への熱意とプロフェッショナルを感じた」
- 「専門的な業務内容をコンパクトに説明してもらい、改めて多機能な施設を実感した」

《三鷹中央防災公園・元気創造プラザのイメージ》

- 「方舟(いろいろな智慧がつまっている)」「船」「お城」「迷宮」「フルーツケーキ」
- 「(よいものがつまっている)セレクトショップ」「三鷹のアンテナ業務」「デパート」

《今後に向けたアイデア》

- 「index、検索性が必要」
- 「(敷居の高くない) コンシェルジュがいるとよい」
- 「屋台のような情報提供の場所をつくる」
- 「機能をクロスさせる(閉じない)形をつくる」
- 「無目的なスペース(=すき間)をつくる」
- 「すき間を介して新たなコミュニケーションが生まれる可能性をつくる」
- 「中庭やバルコニー、テラスについて、安全策を講じながら人が集える工夫をすれば、賑わいや全体としてのまとまりが生まれるのではないか」
- 「より多くの人に伝えるための工夫が必要」
- 「市広報に『プラザコーナー』を設けて各フロアを順番に紹介してはどうか」
- 「愛称の募集も広報で市民全体に呼び掛けてはどうか」
- 「表情を出す=楽し気な雰囲気を出す」
- 「若いスタッフの出番をもっとつくる」

「アイデアを凝らすことで楽しさを出せるのではないか」  
「プレゼン能力が高い人材を育成するとともに活躍できるような場をつくっては」  
「今回のような見学会を増やす」  
「歯科衛生士をコミュニティ・センターまで巡回させる工夫をしては」

④ 参加者から出された三鷹中央防災公園・元気創造プラザのキャッチフレーズ等

「創プラを街に！！」  
「誰かに会える場所 創プラ」  
「多機能ワクワク館」  
「悩み解決プラザ」「お悩み解決館」  
「宝探しプラザ」

3. 職員参加の記録

(1) 三鷹中央防災公園・元気創造プラザまるごとウェルカムデー担当者打ち合わせ

① 開催概要

日時：令和4年11月15日（火）10時30分～12時  
内容：三鷹中央防災公園・元気創造プラザまるごとウェルカムデー実施に関する各フロア担当者の事前打ち合わせ  
・まるごとウェルカムデー事業内容について  
・ウォークショップについて  
・各フロアの企画内容について  
・当日に向けた準備や必要なものについて

(2) 職員ワークショップの開催

① 開催概要

日時：令和5年2月16日（木）13時30分～15時30分  
テーマ：2050年の未来の視点から“三鷹中央防災公園・元気創造プラザと市民センター”のあり方を考える  
会場：三鷹中央防災公園・元気創造プラザ4階 生涯学習センター学習室1  
参加者：14名（下記所属内訳）  
健康推進課、防災課、緑と公園課、生涯学習課、スポーツ推進課  
子ども発達支援センター、社会福祉協議会、三鷹市スポーツと文化財団  
三鷹ネットワーク大学推進機構  
タイムスケジュール：  
13:30～13:33 挨拶  
13:33～13:43 フューチャーデザインの説明

13:43～13:48	タイムテーブル、「ワークショップの心得」について
13:48～13:53	自己紹介(グループでのアイスブレイク) 「30年前、1990年頃、あなたは何をしていましたか？」
13:53～14:22	ワーク1 「皆さんはタイムマシーンに乗って、2050年の「みたか」にそのままの年齢でタイムスリップしています。2050年の社会、そして「みたか」はどうなっていますか？あなたにみえる2050年の暮らし、しごとやみたかのまちについて描いてみてください」
14:22～14:27	休憩
14:27～15:05	ワーク2 「皆さんはまだ2050年にいます。これまで話したことをもとに、2050年の“市役所や三鷹中央防災公園・元気創造プラザと市民センター”はどうなっていますか？暮らしのなかでどういった位置づけになっていますか？」
15:05～15:27	ワーク3 「まだまだ皆さんは2050年にいます。これまで話したことをもとに、2023年の人々にアドバイスやメッセージをお願いします。」
15:27～15:30	終わりの挨拶

## ② 職員ワークショップの内容

### <ワーク1>

「皆さんはタイムマシーンに乗って、2050年の「みたか」にそのままの年齢でタイムスリップしています。2050年の社会、そして「みたか」はどうなっていますか？あなたにみえる2050年の「暮らし」「しごと」「みたか」のまちについて描いてみてください」

#### ◆ワークショップで出された主な「未来のイメージ」

##### 《未来の暮らしのイメージ》

- ・ シェアの時代/住宅も車もシェア/個人の所有物が少ない
- ・ 技術の進歩で交通事故がほぼ0になる
- ・ 自家用飛行機/車が飛ぶようになる
- ・ 電話・メール・インターネットはICチップ化（翻訳も）
- ・ メガネ型のウェアラブルデバイスの普及/新しい通信機の登場
- ・ 物のデータ化、小型化/人が物を持ち歩かない
- ・ 一家に一台ロボット
- ・ 人口減少
- ・ ヴァーチャル技術の発展（オンラインでも触れる、匂いも感じられる）
- ・ 水素活用的一般化
- ・ 太陽光がメイン発電

- ・ スポーツは全てVRで試合ができる
- ・ 宇宙旅行
- ・ 公共サービス集中化

#### 《未来の働き方のイメージ》

- ・ 人生 130 年時代
- ・ 殆どの仕事がロボット化
- ・ 役所の受付はAIが対応
- ・ オートメーション化

#### 《未来のみたかのまちのイメージ》

- ・ 三鷹駅周辺の開発が進んで人気の街になっている
- ・ 駅が高層になっている
- ・ 複合施設が駅前にある
- ・ 電柱がない

### ＜ワーク 2＞

「皆さんはまだ 2050 年にいます。これまで話したことをもとに、2050 年の“三鷹中央防災公園・元気創造プラザと市民センター”はどうなっていますか？暮らしのなかでどういった位置づけになっていますか？」

#### ◆ワークショップで出された主な「未来のイメージ」

##### 《三鷹中央防災公園・元気創造プラザについて》

- ・ 多世代・多様・異質なニーズ、身体のみならず心を元気にする場所
- ・ 何かをやりたくなったら手軽に相談、仲間を見つけられる場所
- ・ 市役所とプラザが繋がって「三鷹まるごとプラザ」となっている
- ・ 防災拠点としての重要度がUPしている
- ・ プラザでもeスポーツが行えるようになっている
- ・ 最新の人工芝で養生不要、いつでも遊べるとなっている
- ・ ノイズキャンセル技術で大音量OKとなり、コンサートの開催も可能となる
- ・ 人が常駐している施設として高齢者対応ハブ施設になっている
- ・ 公園はいこいの場となっている
- ・ 市民による運営が行われている
- ・ 子どもによる企画・運営も一部行われている

##### 《市民センターについて》

- ・ 窓口の縮小に伴い、コンパクトになっている
- ・ 市役所のなかに保育園や学校、老人ホーム等が併設されている
- ・ オンラインでの手続きをサポートする場/相談する場となっている
- ・ 行政サービスが国から地方自治体に移っている（機能のシームレス化・オンライン化）
- ・ 庁舎屋上庭園にレストランなど市民憩いの場がある

### <ワーク 3>

「まだまだ皆さんは 2050 年にいます。これまで話したことをもとに、2023 年の人々にアドバイスやメッセージをお願いします。」

#### ◆ワークショップで出された主な「未来人としてのアドバイス」

- ・ 電子化が進んでも地域への関わりなどは大切に
- ・ 高齢者が使いやすいかどうかの視点を大切に
- ・ 歴史と文化をしっかりと残してください
- ・ 人が集える空間のある施設となっていますか
- ・ 憩いの場として何が必要か考えましょう
- ・ 地震などいつ起こるか分からない災害にはしっかりと備えてください
- ・ 災害データはきちんと蓄積して残しましょう

### (3) 事務局会議の開催

#### ① 令和 4 年 4 月 26 日（火）15 時～16 時（オンライン）

出席者	【三鷹市】スポーツと文化部長、同担当部長、芸術文化課長、担当 1 名 【事務局/三鷹ネットワーク大学推進機構】事務局長、担当 1 名 【事務局/㈱ソシオエンジン・アソシエイツ】担当 2 名
検討内容	令和 4 年度の進め方について 令和 4 年度 4 月から 6 月にかけてのスケジュール確認を行った。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和 3 年度報告書について市長への直接報告を行う</li> <li>・ 5 月中に助言者となる先生方と個別に打ち合わせをもつ</li> <li>・ 6 月に助言者会議をもつ</li> </ul>

#### ② 令和 4 年 9 月 12 日（月）10 時 30 分～11 時 15 分（オンライン）

出席者	【三鷹市】スポーツと文化部長、同担当部長、芸術文化課長、担当 2 名 【事務局/三鷹ネットワーク大学推進機構】担当 1 名 【事務局/㈱ソシオエンジン・アソシエイツ】担当 3 名
検討内容	12 月 3 日開催縦連携イベントについて 「三鷹市生涯学習センターフェスティバル」と同時開催予定の縦連携イベント詳細について、打ち合わせを行った。  日程：12 月 3 日（土）10 時～17 時 形式：「三鷹市生涯学習センターフェスティバル」と併催（同時開催） 内容：それぞれの部署に応じた形で実施（参加）を依頼する



＊「館内見学ツアー」の実施検討

内容：ウォークショップの形式

案内役：財団職員及び(株)ソシオエンジン・アソシエイツにて行う

人数：10名程度（事前申込制）

回数：2回（午前・午後 各1回）

会場：（ワークショップ会場は）今後場所を確定する

広報：募集要項をまとめ、11/6号（10月11日原稿締切）に掲載する

③ 令和5年1月31日（火）15時～16時（オンライン）

出席者	<p>【三鷹市】スポーツと文化部長、同担当部長、芸術文化課長、担当2名</p> <p>【事務局/三鷹ネットワーク大学推進機構】担当1名</p> <p>【事務局/(株)ソシオエンジン・アソシエイツ】担当3名</p>
検討内容	2月16日開催職員ワークショップについて
<p>職員ワークショップの詳細について、当日の流れをもとに打ち合わせを行った。</p> <p>日程：2月16日（木）13時30分～15時30分</p> <p>会場：生涯学習センター 学習室1</p> <p>参加者：各フロア・部署から推薦</p> <p>備品類：模造紙、付箋紙、ペン、帽子、音楽</p>	
<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px auto;"> <h2 style="color: purple; margin: 0;">タイムテーブル</h2> </div>	
<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 5px; display: inline-block;"> <p><b>挨拶</b></p> </div>	
<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 5px; display: inline-block;"> <p><b>ステップ1（10分）</b>：フューチャーデザインの説明</p> </div>	
<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 5px; display: inline-block;"> <p><b>ステップ2（5分）</b>：これからの流れ・タイムテーブル、 「みたか未来人における心得」について</p> </div>	
<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 5px; display: inline-block;"> <p><b>ステップ3（5分）</b>：自己紹介（グループでのアイスブレイク）</p> </div>	
<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 5px; display: inline-block;"> <p><b>ステップ4（29分）</b>：タイムマシーンに乗って、2050年の「みたか」にそのままの年齢でタイムスリップ、あなたに見える2050年の暮らし、しごとやみたかのまちについて描いてください。</p> </div>	
<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 5px; display: inline-block;"> <p>休憩（5分）</p> </div>	
<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 5px; display: inline-block;"> <p><b>ステップ5（38分）</b>：そのなかで三鷹中央防災公園・元気創造プラザと市民センターはどうなっていますか？暮らしのなかでどういった位置づけになっているのでしょうか？</p> </div>	
<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 5px; display: inline-block;"> <p><b>ステップ6（22分）</b>：未来人として、2023年の人々に送るアドバイスやメッセージを考えましょう。</p> </div>	
<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 5px; display: inline-block;"> <p><b>終わりの挨拶</b></p> </div>	

IV. 資料

資料1. 「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ まるごとウェルカムデー」チラシ

# 三鷹中央防災公園・元気創造プラザ

# まるごとウェルカムデー

## 12/3 土

2022

10:00-16:00



**災害発生時の防災力を高めよう!**  
防災に関する取り組みについてのご紹介。

**三鷹市生涯学習センターフェスティバル 同時開催**  
自主グループによる作品展示や活動紹介、演技発表、体験ワークショップ、特別講師による講演会など。

**お役に立ちます『みたか社協』!**  
社会福祉協議会で実施している事業のご紹介。

**保健センターの紹介**  
4つのテーマ(母子保健・歯科・栄養・成人保健)のご紹介。

**子ども発達支援センターの紹介**  
子育てや発達に関する相談窓口、ひろば、一時保育などのご紹介。

**花と緑のまち三鷹パネル展 (東モール)**  
三鷹市の公園やみどりに関する市民の取り組み等のご紹介。

**『2022ポッチャみたかカップ』の観覧**  
10:00-14:00  
メインアリーナにて開催中の競技を観覧できます。ポッチャ体験コーナーもあり。

**パネル展示等による施設紹介・情報発信をしています!**

**申込不要**

**5F** 総合防災センター (防災課)

**4F** 生涯学習センター

**3F** 福祉センター (社会福祉協議会)

**2F** 総合保健センター

**1F** 子ども発達支援センター

**地下** SUBARU総合スポーツセンター

**三鷹中央防災公園 (樹と公園課)**

## 館内見学ツアー ウォークショップ

**三鷹中央防災公園・元気創造プラザをみんなで楽しみながら探検しませんか?**  
実際に現場を歩きながら感じたこと、課題点や解決策を参加者で共有する「歩いて行うウォークショップ」。プラザ館内をスタッフの案内でめぐるとともに、グループワークでキャッチコピーを考えます。

**事前申込制**  
定員各回10人  
\*申込多数の場合は加減

**時間** 1 回目 10:00~12:30  
2 回目 13:30~16:00

**集合場所** 元気創造プラザ 5F 災害対策本部室

**アドバイザー**



梶橋修氏  
建築家  
旗テイクハウス  
建築設計事務所



中村隆一氏  
立教大学名誉教授  
(一社)社会デザイン・ビジネスラボ代表理事

**申込方法** 往復はがき又はメールに、参加希望者の氏名(ふりがな)・年齢・住所・電話番号・希望回を記載して、11月25日(金)必着で三鷹市芸術文化課までお申し込みください。(往復はがき・メールのいずれかにより、1枚・1通につき1人まで)

**11/25(金) 必着!**

**アクセス** 三鷹市新川6・37-1



まるごとウェルカムデーに関するお問い合わせ・ウォークショップお申込み

三鷹市スポーツと文化課 芸術文化課 住所:〒181-8555 三鷹市野崎1-1-1  
メール:geijutsu@city.mitaka.lg.jp  
電話:0422-29-9861

資料2. 広報みたか No.1726(令和4年 11 月6日発行)掲載

「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ まるごとウェルカムデー」に関する記事

**市役所電話(代表)** ☎0422-45-1151  
災害時に避難者等の応対ください  
相談窓口の案内係 ☎市役所総務課 ☎0422-44-6600  
あふたごセンター ☎市民の声を聴くPAK ☎0422-48-2810  
子どもを守る ☎安全安心メールの発信 ☎maam@req.jp(メールを送信)  
いつでもお電話 ☎防災関係の内容発信 ☎0120-119-921(フリーダイヤル)

**【あふたご(広聴)】】COMPO+による総務課-市民生活アドバイザー**  
0422-44-6600(11月4日～12月3日)  
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止のため、本サービスは原則として対面での対応はできません。お問い合わせは、電話受付、メール受付、月～日曜日 9:00～12:15、20:00～22:15 ※月曜日の午後15時から21時まで(休)はできません。  
**むししのりFM 78.2MHz**  
【あふたご 三鷹市です】放送時間 月～金曜日 10:20～12:25  
【あふたごにみかアフォン】放送時間 木曜日 9:00～9:55

**11月27日(日)午前9時スタート**  
**第31回 三鷹市民駅伝に伴う交通規制**  
スポーツ推進課 ☎0422-29-9563  
走路周辺は規制します。ご理解とご協力をお願いします。  
交通規制のルートは以下の通りです。  
11月27日(日) 午前9時スタート  
スタート: 三鷹市民駅伝スタート地点(三鷹駅南口)  
コース: 三鷹市民駅伝コース(三鷹駅南口～三鷹市民駅伝スタート地点)  
ゴール: 三鷹市民駅伝ゴール地点(三鷹市民駅伝スタート地点)  
規制期間: 11月27日(日) 午前9時～午後10時  
規制区間: 三鷹市民駅伝コース(三鷹駅南口～三鷹市民駅伝スタート地点)

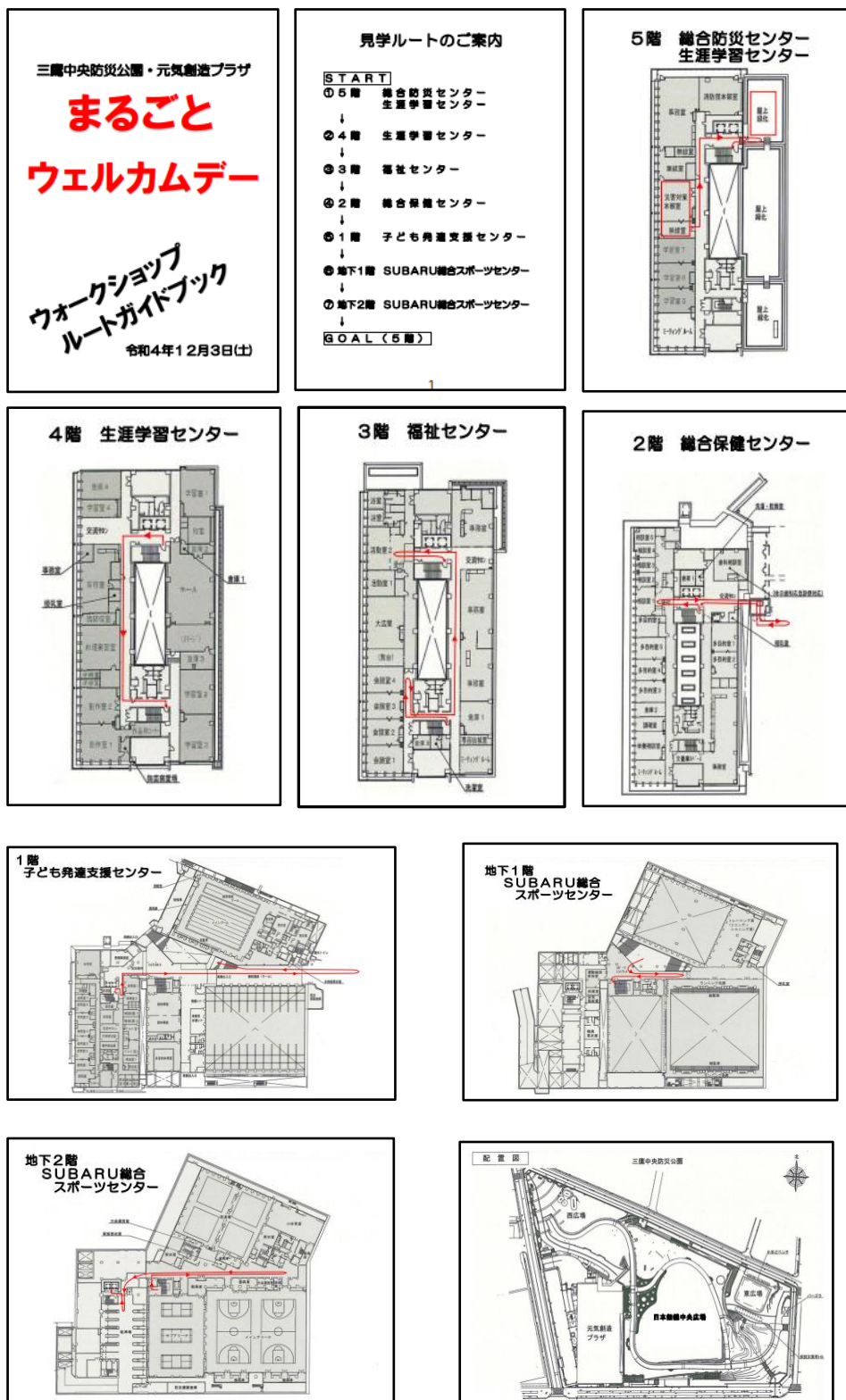
**三鷹まるごと博物館開館 新年の願いを結ぶしめ飾り**  
市民生活課 ☎0422-29-9563  
全国各都府県のごまぎまなしめ飾りを紹介し、その歴史や意味、歴史を楽しく学ぶ講座です。  
11月26日(土)午後1時30分～3時30分 ①90人  
11月27日(日)午前10時から必要事項(11月参加)を申請 ☎0422-29-9562 | hopen@city.mitaka.lg.jpへ(先着順)

**11月20日(日)午後10時～午後3時(雨天中止)**  
**110th ふじまつり**  
三鷹市・調布市のごみや資源物を処理している関係で、3年ぶりに開催します。ごみ処理施設の見学やリサイクル品の販売、エコワークショップなど、楽しみながら環境問題への理解を深めるイベントです。  
当日会場へ  
飲食を伴う飲食店の出店は  
ありません。  
詳しくは、問合せホームページ(左記QRコード)でご確認ください。  
◆SDGs啓蒙  
ー 楽しく楽しくエシカル啓蒙  
午前11時～11時50分  
会場: 室内・野外  
講師: 立川市立東行町の立川洋林(たてがわ・ひらりん)さん(写真)  
◆別館開催 環境について楽しく学べるエコイベント  
会場にやさしい物産(プラザインハイブリッド)車による電力供給がメインのセッションやみつるらクラブ作り、地球温暖化ライブ、音楽発表など。  
市、みたか環境活動推進会議(国分トコエモビルティア東京版 NPO法人みたか自然協議会)等  
問合せ ☎ 当日会場へ  
環境局環境課 ☎0422-29-9612  
みつるらクラブ作りは午前10時から1時頃までの開催で、定員は各団10人、10時から外会場ブースで整理券を配布します。

**三鷹中央防災公園・元気創造プラザ まるごとウェルカムデー**  
芸術文化課 ☎0422-29-9861  
市内の様々な機関を紹介するイベントです。当日は、各フロア・施設でイベントを行うほか、約1時間約10分間の中で感じたことや疑問点、解決策を参加者と共有する「ワークショップ」(7時～9時)も開催します。  
12月3日(土)午前10時～午後10時30分、18:30分～4時(フェスティバルは午前10時～午後6時)  
定員10人 ②各フロア  
11月25日(日)15時までに必要事項(11月参加)・希望館を任意で指定したは電子メールで「〒181-8555芸術文化課」 | gajtsu@city.mitaka.lg.jpへ(1人1通、申込多数の場合は抽選)



資料3. 三鷹中央防災公園・元気創造プラザ まるごとウェルカムデー  
館内見学ツアー「ウォークショップ」ルートコース



資料4. 「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ まるごとウェルカムデー」  
ウォークショップ参加者アンケート

本日のウォークショップ全体について感想をお聞かせください

- とてもよかった 7名  
 よかった 2名  
 どちらともいえない 0名

三鷹中央防災公園・元気創造プラザのウォークショップについて、家族、友達など周囲にもお薦めしたいですか？

- そう思う 9名  
 特に思わない 0名

ウォークショップを通して（元気創造プラザについて）感じたこと、思ったことについてお聞かせください（キーワードのみでも構いません。）

- ・ オープン時の見学会を見逃していたので、いろいろな発見があり有難うございました
- ・ 知らなかったことが多く、もっと知りたいと思いました
- ・ ぜひ家族で利用したいと思いました
- ・ 今までスポーツ施設はよく利用していたが、他の階は利用したことがなかったので、積極的に利用したい
- ・ 施設の中にはいろいろな力があるのに認知度が低い
- ・ もっと知ろう！
- ・ 今後も見学会を実施して下さい
- ・ 各階の交流があるとよいのでは
- ・ 青少年もまきこんではどうか
- ・ 青少年の居場所の必要性
- ・ ワークショップに参加したい
- ・ リアルな出会いを生む場所
- ・ まちあるき（社協、市役所、消防団、市民参加）
- ・ 三鷹市全域の活動を支えるハブ
- ・ 市民とワンストップで向き合う行政機能
- ・ 防災センターとしての歴史・由来を明確にする
- ・ 防災公園としての役割、マンションに向けて自衛消防訓練のやり方などの説明
- ・ 一局集中にならないように分散拠点を設ける、そのためのハブになる
- ・ 一時預かりが便利です
- ・ かけがえのない存在
- ・ Let's enjoy you life

資料5. 職員ワークショップ「2050年の未来の視点から“三鷹中央防災公園・元気創造プラザと市民センター”のあり方を考える」スライド



**2050年、  
みたか未来への旅**

**今日のお題**

**2050年の未来の視点から  
“三鷹中央防災公園・元気創造プラザと  
市民センター”のあり方を考える**

**タイムテーブル**

挨拶 (3分)
ステップ1 (10分) : フューチャーデザインの説明
ステップ2 (5分) : これからの流れ・タイムテーブル、 「ワークショップの心構え」について
ステップ3 (5分) : 自己紹介 (グループでのアイスブレイク)
ステップ4 (29分) : タイムマシーンに乗って、2050年の「みたか」にそのま まの状態でタイムスリップ。あなたにみえる2050年のくらし しことやみたかのまちについて聞いてください。
休憩 (5分)
ステップ5 (38分) : そのなかで三鷹中央防災公園・元気創造プラザと市民センタ ーはどのような姿から暮らしのなかでどういった位置 づけになっているか考えてみましょう。
ステップ6 (22分) : 未来人として、2023年の人々に送るアドバイスやメッセー ジを考えましょう。
終わりの挨拶 (3分)

**ワークショップの  
心得**

- ① ワークショップを楽しみます。
- ② たくさん意見を出し合います。
- ③ お互いの意見を尊重します。
- ④ 他人の意見を非難しません。
- ⑤ 続けて3分以上は話しません。

**ステップ3 (5分)**

自己紹介をしましょう。

今日呼んでほしい名前と、  
**「30年前、1990年頃、あなたは何をしてい  
ましたか？」**

一人1分程度でお願いいたします。

**1990年頃、オフィスではまだ  
タイプライターを使っていました。**



1990年頃のオフィス → 現在

**みたか未来人に  
おける心得**

- 2050年にタイムスリップした未来人になりきる  
・最初は気持ちよいかもかもしれませんが、現在の役職や  
立場を離れて、あくまで未来人になりきって議論してく  
ださい。
- 現在の課題から一度離れて議論する  
・「将来を描く」といっても最初はイメージが湧かない  
かもしれません。一度、現在の課題から離れて自由な発  
想で議論してください。

**ステップ4 (29分)**  
5分+15分+9分 (3×3グループ発表)

皆さんはタイムマシーンに乗って、2050年の  
「みたか」にそのままの年齢でタイムスリップして  
います。

2050年の社会、そして「みたか」はどうなっ  
ていますか。  
あなたにみえる2050年のくらし、しことやみたか  
のまちについて描いてみてください。

(注意) :  
<2023年秋にはコロナが収束しているといひね>  
ではなく、  
<2023年秋にはコロナが収束してよかったよね>  
2050年以前のことは過去形です。

**ステップ5 (38分)**  
5分+24分+9分 (3×3グループ発表)

まだまだ皆さんは2050年にいます。  
これまで話したことをもとに、**2050年の  
<三鷹中央防災公園・元気創造プラザと  
市民センター>**はどうなっていますか？  
暮らしのなかでどういった位置づけに  
なっていますか？



**「まるごとウェルカムデー」ワークショップ開催**

開催日：2022年12月3日 (土)  
会 場：三鷹中央防災公園・元気創造プラザ  
参加費：三鷹市市民税

(参加費からでた元金創造プラザに対する感謝・イメージ)

- 「1970年代の思い出写真」
- 「ソーシャルサービスのハブ」
- 「市民の暮らしをササグステップで支える方法」
- イメージ「お城」「遊園」

(メッセージフレーム、書翰等)

- 「多機能コワーキング」
- 「臨み創設プラザ」
- 「お悩み解決室」

**ステップ6 (22分)**  
3分+10分+9分 (3×3グループ発表)

まだまだ皆さんは2050年にいます。  
これまで話したことをもとに、  
**2023年の人々にアドバイスやメッセー  
ジ**をお願いします。

